



五明樓玉の輔 師匠



連合駿台会報

No.323 平成27年9月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十一-二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三三) 三二九六一四七四七
 印刷 有限会社 美創

連合駿台会七月例会

「暑気払い小噺」

落語家 五明樓玉の輔師匠

連合駿台会平成二十七年七月の例会を、七月十六日(木)十八時より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、落語家・五明樓玉の輔師匠をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、山口政廣会長から次のような挨拶がありました(挨拶主旨)。

台風の影響があり、当初出席予定をされていた方がだいぶ欠席となってしまったが、うまく運営して、みなさんが無事にお帰りにされるようにしたいと思っている。

いま一番の問題である、国会で審議されていることに関しては、いろいろな考え方があるかと思うので、ここでは控えさせていただきたいと思う。経済面ではユーロに関し

て、四月五日のギリシャの国民投票がどうなるか懸念していたが、案の定、EUから出された緊急策が否決された。これで混乱するのかもしれない、改めてEU側から提言が出され、ギリシャ国会が承認するという事になったが、若干、歴史的なことも含めてお話ししたいと思う。

ご承知の通り、ギリシャという国は、バルカン半島の最南端に位置し、島が多く約三千万もある。ということ、昔から海運業と観光業が盛んだが、GDPは二〇一三年で二千四百億ドル、これは神奈川県と同じくらいのレベルにすぎない。一方、人口は一千万人で、東京都よりやや少なく、国土面積は日本の三分の一ぐらいという位置付けの国である。

ヨーロッパ諸国は欧州大陸を舞台にした二度の大戦に懲りて、二度とこのような状況にならないよう、経済的に繋がろうということになり、EUを結成して、共通の通貨・ユーロを作った。そんな経緯からギリシャも参加したのだが、この国は地政学上ではとても重要なところで、今もNATOの基地があり、イラン・イラク戦争の時も、ここから戦闘機が飛び立った。したがって、もし取り込みがうまくいかないとすると、中国やロシアがクリミアと同じようにここを拠点に進出しようという可能性が高いため、EUとしては、何とかしてギリシャを手放したくない

という実情もあるのだ。

しかしギリシャの経済力はあまり強くない。輸出が百億ドルに対し、輸入が三百億ドルで、そのマイン分を補っているのが、海運王だった故オナシスをはじめとする海運業、さらに観光業、もう一つは海外に出稼ぎに行った移民の送金、この三つで収入が成り立ち、貿易赤字を埋めて、どうにか国を運営している。ユーロ制度を始める時、ギリシャも手を挙げたが、財政状況が基準に該当しないということ、統計上数字をいじったのだが、二〇〇九年に政権が交代して、その事実が明るみになり、混乱が始まって、緊急財政政策を行って融資を受けることになった。いま受けている融資は、ヨーロッパの基金と二国間（対ドイツ、対フランス）分、これらを併せると、ヨーロッパ関係で七割近くを占めており、日本が絡むところは、IMF経由の六割くらいしかない。よってギリシャ経済そのものはそれほど問題ないが、ただユーロが不安定になると、ヨーロッパとの貿易が多いわが国としては、かなり影響を受けることになる。

実は、一八三〇年代に当時のバイエルン王国（現在のドイツ南部）が金融支援をした際も、ギリシャは借金の返済を滞り、返済を巡る交渉は実に五十年間に及んだといわれる。その時痛めつけられた思いが今でも忘れられず、ドイツはギリシャに対して強硬な態度を取っている。一方、ドイツ人は夏の保養にギリシャへ行くことが多いので、その金持ちぶりを見せつけられるギリシャとしては面白くない……ということ、両国の折り合いはつきにくい。今回、ギリシャは六月末でのIMFへの十五億ユーロ（約二百億円）の返済が難しい状況となり、先進国で初めてデフォルト（債務不履行）一歩手前の厳しい環境に置かれた。一カ所日本に関わるのは、ギリシャが百十七億円近いサムライ債を発行していることだ。サムライ債とは、日本の投資家を対象に、国際機関や海外の政府、民間企業が円建てで発行する債券のことで、反対に外貨建てで発行するものはショーン債という。このようなユニークな愛称の債権は他にもあり、アメリカで発行するものをヤンキー債、中国はパンダ債、韓国はアラン債という。サムライ債の償還がどうなるかが問題だ。

緊急策で議論になっているのは、まず年金の問題で、ギリシャは五十五歳から給付され、その水準は現役と同じという高さで、しかも国民の四人に一人は公務員のため、それを下げるよう勧告している。次に、ギリシャは「脱税天国」とも言われ、船籍はパナマなど税法上有利な国に移しているし、観光業では領収書を発行しないし、一定の金額がないと無税なため、ほとんど税金を納めていない。税務署員の汚職も日常茶飯事で、管理上の問題も指摘されている。そういうものを含めたユーロ圏の債権者たちの要求（緊縮策）にどう応えるか、ということであろう。

連合駿台会では、運営委員会が順調に機能して、さらにそれぞれの委員会活動も活発で、いい形で進んできているように思われる。ただ明治大学ではいくつかの問題を抱えている。その一つが明治出身の先生の割合が三割くらいしかおらず、公募制のため、東大など他大学出身者の割合が増え、私学という立場から考えると危機感を持っている。そういう意味では明大大学院生への奨学金とかを考えて、明治出身の教授を増やし、明治の特色を出そうという意向も出ており、当会でも何らかの形でお手伝いしたいと思っている。

今日は暑気払いの小嘶ということ、楽しみにしている。

* 五明樓玉の輔師匠は、明大中野高校時代に「たけしのお笑いサドンデス」という番組で優勝し、大学には行かずにお笑い方面に進み、後に春風亭小朝師匠に目をかけられ、現在に至っています。当日は暑気払いにふさわしい、面白い小嘶で皆さんを楽しませてくださいましたが、その中から不倫嘶の傑作古典落語『紙入れ』をご紹介します。

* いたって気が小さい小問物問屋の新吉。お

出入り先のお内儀さんから、今夜は旦那が帰らないので寂しいから、遊びに来てくれという手紙をもらった。旦那にバレれば得意先をしくじるが、年増のちょっといい女で食指も動く。

結局、恐る恐る出かけてみると、お内儀さんのほうは前々から惚れていた男だから、下にも置かないサービスぶり。盃をさしつさされつつしているうちに、酔ったお内儀さんがしなだれかかってきた。

いまだに、いつ旦那が踏み込んでくるかとびくびくもの新吉に比べ、こういう時は女のほう度胸が座っている。

「今夜は泊まってつとくれ」

「困ります。旦那が……」

「帰ってきやしないさ。おまえ、あたしが嫌いかえ」

「いえ、そんな……」

お内儀さん、もしイヤというならあたしの立場がないから、だんなが帰った後、おまえが押し込んできて無理やりあたしを……と言いつつと新吉を脅し、布団に引きずり込む。

さて、これから……という時に、突然表戸をドンドンとたたく音。

「おい、開けねえか」

だから言わないこつちやない……と、文句を言う暇もなく、新吉は危うく裏口から脱出した。

翌朝、床の間に、お内儀さんの呼び出し状をはさんだままの紙入れを忘れてきたことに気づいた新吉は、真つ青になる。あの紙入れは自分の物だと旦那にも知られている。とすると、もうバレているだろうが、もしそうでないのにこつちが逃げたんじゃあ、かえってヤブヘビだ……、と考えあぐねて、とにかく様子を見に行くことにした。旦那がもし顔を見て「この野郎、ふてえ野郎だ！」と言いかけたら、風を食らって逃げてしまえばいい。行ってみると旦那は、いつもと変わらず、おまえはそうして朝早くから商売熱心なのは感心だとはめるので、新吉、これはことによると不意を突く策略かも……、とますます緊張する。

「……おい、どうしたんだ。顔が青いぜ。何か心配事か。使い込みだな」

「いえ」

「女の一件か」

「へえ」

「相手はカタギか商売人か？」

「いえ……」

「てえと、まさかおめえ、人の……」

「へえ、実はそうなんです」

とうとう言ってしまった。

「他人の女房と枯木の枝は、登り詰めたら命懸け、てえぐらいだ、てえげえにしゃあがれ」と小言を言いながら、旦那が根掘り葉掘り聞いてくるので、新吉、実はお世話になっている家のお内儀さんが……、と一部始終をしゃべり出して、

「……長襦袢一枚でお内儀さんが」

「こんちくしょう、いいことしゃがって」

「寝た途端に旦那が」

「悪いところに帰りやがったな」

逃げるには逃げたが、紙入れを……と言っているところへ、泰然自若として当のお内儀さんが起きてきた。

話を聞いても少しも慌てず、

「あーら、そりゃあ心配だけどさ、けど、亭主の留守に若い男を引っ張り込んで、いいことをしようというお内儀さんだもの、そこにぬかりはないと思うよ。紙入れぐらい」とポンと胸をたたいて

「ちゃんと隠してありますよ。ねえ、おまえさん」

「そうだと。たとえ紙入れに気づいたって、女房を取られるような馬鹿だ。そこまでは気が付くまいて」

*

◆広報委員会からの「案内(理事会議事録)

日時…平成二十七年七月十六日(木) 十七時
場所…明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新入会員承認の件

大原組織・会員増強委員長から、本日は三名の方（坂田正弘氏、畠中君代氏、平山英樹氏）が推薦されており、委員会では全員について入会を承認した、という報告があった。これに関して、全員異議なく承認された。

○各委員長より報告事項

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

今年度中の通常例会の日程はすでに決定済みだが、その他の事業で、スケジュールと内容がほぼ固まっているものをご紹介する。まず九月は昼食例会になるが、講師は明治大学国際日本学部の吉田悦志教授で、テーマは「明治大学の中の日本海文化」ということになっている。十月二十一日（水）には第五回「ビジネス研究会」を開催、講師は当会メンバーの池田一義氏（埼玉りそな銀行社長）に、りそなのV字回復というような内容でお話しいただくことに決まった。親睦会は、今年三月に富岡製糸場へのバスツアーを開催し、今年度は宝塚の観劇と会食を行おうと計画中だが、日時については未定である。その他を含め、スケジュール化・具体化を急いで、早めにご案内したいと思っている。

〈大学支援委員会 中川委員長〉

この二カ月間で変化のあったことをご報告させていただく。学術賞・学術奨励賞の件は、前回もお話しした通り、今までのやり方

では応募論文の件数が少ないということ、新しい研究・推進部長とも相談の上、従来は他薦のみだったが、今年度からは自薦も可能とした。また時流に即して女性の先生を増やす、さらに明治大学出身の先生方により多く出していただくなどを考慮中である。春期寄付講座（六月四日）では青柳副会長に講演をお願いして、百四十一名の参加者（当会からも約二十名が出席）があり好評裏に終わった。秋期寄附講座は、十一月五日（木）、木下サーカスの木下唯志氏に依頼した。キャリア教育支援は、りそな銀行、山崎製パン、ホテルグランドパレス、京王電鉄、三井住友海上の五社の協力を得て行い、七月十五日にすべて終了、二十八日に関係会社のみなさん、商学部の講師、大学支援委員会のメンバーが集まり、今年度のテーマと反省会を開催し、来年度に向けて行きたいと思う。ホームカミングデーは十月十八日（日）、今年は一九五五年、六五年、七五年、八五年、九五年、二〇〇五年の方が対象だが、他の年次卒業の方も出席可能なので、是非参加していただきたい。

〈財務委員会 谷委員長〉

第1四半期（四～六月）が終了したので、六月までの試算表を作成した。会費収入のことを申し上げると、会費は六月に一番入金が多いのだが、今年は予算額1475万円に対し、717万3676円、この実績がこの時

期（六月末）に相応しいかどうか？ ということで昨年の実績を見ると、1052万200円で、昨年同期比は、約七割である。この理由は、今年は郵送を簡素化するため、次の例会案内と一緒に送付したため、請求書がいつもより一週間くらい遅れて着いたので、入金もそれに伴い遅れていると思われる。当期収支差額は、339万7475円となっているが、第2四半期の状況を見て、またご報告したいと思う。六月末現在で「正味財産残高」が6379万4432円だが、いま大学も寄付の面でご苦労されているようなので、連合駿台会としても何らかの形で協力していくべきかと思うが、ただこれは会員の大切な基金でもあるので、そのあたりをよく協議し、大学の将来も考えて前向きに検討していく必要があると思っている。

○その他

橋口明治大学常勤理事より、次のような説明があった。

寄付が少ないのは事実で、何とかして増やしていかなければならないが、校友の方が前向きになってくださっても、明治大学の教授は三割近くが東大と慶應出身なので、どうも先生方の士気が上がらないようだ。みなし校友とか推薦校友を作ってくれという意見もあるが、先生方も校友であると認識してもら

いたい、と理事会などでもお話ししている。

未来サポーター募金で一番多いのは奨学サポート、一方、一番少ないのはキャンパス整備サポートだが、これは今後ますます必要になってくる。日本には寄付の文化がないと同時に、企業も寄付よりも株主への配当に力を入れているため、厳しいのが現状のようである。大学としても、何か特別な事業をやるときは前面に押し出して寄付を募る、また他大学がどのようなことをやっているかを募金室で調べ、寄付を喚起していくつもりだ。今年三月末までに寄付された個人を、一億円以上、千万円以上、五百万円以上、百万円以上のランクに分けて、新しい寄付者顕彰制度を来年四月から実施する予定。たとえば学内行事への招待、学内刊行物の贈呈、芳名掲載などをして、寄付金がどのように使われているかを明確にして、寄付をしていただけたようにもっていきたいと思っている。 以上

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略)



小林 芳郎
昭和三十九年・法学部卒
今川橋法律事務所
所長・弁護士
埼玉県さいたま市在住



山川 博功
平成六年・文学部卒
(株)ビー・フォアード
代表取締役
東京都調布市在住



神田 金栄
昭和四十七年・法学部卒
サンアンホールディングス(株)
代表取締役社長
埼玉県上尾市在住



坂田 正弘
昭和五十二年・商学部卒
キャンシーマーケティングジャパン(株)
代表取締役社長
東京都世田谷区在住



畠中 君代
昭和四十二年・文学部卒
(株)ビッグKテニス・代表取締役
東京都杉並区在住



平山 英樹
平成二年・商学部卒
高千穂交易(株)
取締役執行役員システム事業本部長
東京都三鷹市在住

◆明大ニュース

●向殿政男名誉教授(校友会長)が

「安全功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

日本の安全学のエキスパートである向殿政男名誉教授(校友会長)が、平成二十七年「安全功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した。「国民安全の日」の七月一日、総理大臣官邸にて表彰式が行われ、向殿名誉教授は安倍晋三首相から表彰状を授与された。

本表彰は、産業安全や交通安全などの分野で、国民の安全確保に顕著な功績を挙げた者を表彰するもの。向殿名誉教授は、経済産業省消費経済審議会製品安全部会長、製品安全対策優良企業表彰審査委員長などを歴任し、あらゆる分野の製品安全に関する制度・規格の制定に尽力するなど、日本の製品安全の向上に多大な貢献をした功績が認められた。

●羽田圭介氏が第百五十三回芥川賞受賞

第百五十三回芥川賞(日本文学振興会主催)の選考委員会が七月十六日に行われ、明治大学校友・羽田圭介氏(二〇〇八年商学部卒業)の「スクラップ・アンド・ビルド」が受賞作に選ばれた。又吉直樹氏の「火花」との同時受賞。羽田氏は一九八五年東京都生まれで、明治大学付属明治高等学校在籍中の二〇〇三年に「黒冷水」で第四十回文藝賞を受

賞。芥川賞には「走ル」(第百三十九回/二〇〇八年上期)、「ミート・ザ・ビート」(第百四十二回/二〇〇九年下期)、「メタモルフォシス」(第百五十一回/二〇一四年上期)の三作品が過去にノミネートされており、今回は「四度目の正直」での受賞となった。

●明大・京大 iPS細胞研究所の 共催シンポジウム

明治大学と京都大学 iPS細胞研究所(C iRA)は七月二十六日、「iPS細胞と医農工連携…あたらしい医療を考える」と題する共催シンポジウムを駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催。医学研究用の遺伝子改変ブタの開発で世界をリードする長嶋比呂志農学部教授(明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート)・MUIIBR所長)や、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授(C iRA所長)らが、医・農・工学それぞれの観点から、未来の医療を語った。

●進学ブランド力調査二〇一五

「志願したい大学」明大が関東エリアで
七年連続一位に

リクルート進学総研が七月十六日に発表した「進学ブランド力調査二〇一五」の関東エリア「志願したい大学」ランキングで、明

治大学が七年連続一位を獲得した。属性別の内訳でも、男子、女子、理系の三部門(いずれも関東エリア)で一位となった。

この調査は、リクルート進学総研が関東・東海・関西の三エリアの高校三年生七万四千人を対象に実施し、約一万人から回答を得て結果を集計したもの。調査は二〇〇八年にスタートし、今年で八回目となる。

●二〇一五オープンキャンパス 過去最多、約六万人が来場

明治大学の各キャンパスを受験生らに開放し、大学生活の一端に触れてもらう真夏の恒例行事「オープンキャンパス」が八月の計七日間、駿河台・生田・中野の三キャンパスで開催され、過去最多となる計五万九千二百四十五人が来場。高校生やその保護者らで会場周辺は連日、大盛況となった。

今年のオープンキャンパスは、文系学部プログラムが中心の駿河台で八月二〜四日の三日間、理系学部のプログラムが中心の生田で八月七〜八日の二日間開催。二〇一三年にオープンした中野では八月十九〜二十日の二日間開催され、国際日本学部・総合数理学部中心のプログラムが展開された。

最も規模の大きい駿河台では初日の八月二日、この日が日曜ということもあり、一万六千人以上が来訪。三日間いずれも来場者が

一万人を超え、キャンパスを埋め尽くした。

●文学部と文化庁が学生向け説明会 「遺跡をまもってまちづくり」

文学部は七月四日、文化庁との共催で、「遺跡をまもってまちづくり―明日の埋蔵文化財保護行政を担う―」と題する大学生・大学院生向け説明会を駿河台キャンパス・リバティタワーで開催した。埋蔵文化財保護行政の意義や魅力を学生に発信し、次代の若き人材を「発掘」するのが狙い。考古学専門コースのある関東二十三大学の協力を得て実現したもので、大学と行政との連携による初の試みとなった。

●校友会 二〇一五年度定時代議員総会 向殿政男会長を再任

明治大学校友会は七月二十六日、二〇一五年度の定時代議員総会を駿河台キャンパス・リバティホールで開催。二〇一四年度決算、二〇一五年度事業計画・予算などについて審議後、任期満了に伴う役員選任を行い、向殿政男校友会長が再任された。任期は四年間で、副会長、監査委員ら新役員も選出された。

●国家公務員総合職試験

明大から二十二人が合格
人事院は七月三十一日、中央省庁の幹部

候補を目指す国家公務員採用総合職試験の二〇一五年度最終合格者を発表。明治大学からは二十二名（前年度二十五名）が合格した。うち女子は四人（同一人）。

明大の合格者の試験区分別内訳は、院卒者試験で「行政」六名（うち女子三人）、「農業科学・水産」一人の計七名。大卒程度試験で「法律」八名（うち女子一人）、「経済」五人、「工学」一人、「農業科学・水産」一人の計十五人だった。

二〇一五年度試験の申込者数は二万七千七百八十二名（前年度比七百三十五名増）、合格者数は千七百二十六名（同百九十二名減）で、倍率は十二・六倍（同一・六ポイント増）。女子の合格者数は三百九十五名（同四人減）となった。出身学校別の合格者数内訳では、国公立大学千二百五十名、私立大学四百七十七名、その他（外国の大学等）六名。合格者の出身学校数は全体で百三校、その中で十人以上の合格者を出した大学は二十五校だった。

●和泉図書館

日本建設業連合会「BCS賞」受賞

明治大学創立一三〇周年記念和泉図書館（和泉キャンパス）がこのほど、日本建設業連合会（会長・中村満義 鹿島建設会長）の第五十六回「BCS賞」を受賞した。同館は二〇一二年五月の開館以来、グッドデザイン

賞や各種の建築賞を受賞するなど、建築物として高い評価を得ている。

●OB社長

▽日本飛行機（輸送用機器） 小島俊文氏

（一九七九年工学部卒・五十八歳）

▽埼玉県信用金庫（金融） 橋本義昭氏（一

九七六年法学部卒・六十二歳）

●OB市長

▽千葉県勝浦市長（無投票当選）

猿田寿男氏（無所属②、一九七三年法学部

卒・六十六歳）

●不戦の誓い新たに

「戦没学徒忠霊慰霊祭」

明治大学の戦没学徒の御霊を慰め鎮める忠霊慰霊祭が七月十日、新潟縣護國神社（新潟市）にて厳かに執り行われ、日高憲三理事長や向殿政男校友会長、校友会新潟県支部関係者ら約四十人が参列した。

「明治大学戦没学徒忠霊殿」（以下、忠霊殿）

は、学業の道半ばにして学徒出陣などで戦死した明大生の戦没者を祀る霊廟。戦時中は駿河台の旧図書館内に「忠魂殿」として安置されていたが、新潟出身の校友の尽力により、一九五〇年に新潟縣護國神社に移された。

二〇〇六年には、同神社の厚意により、本

殿脇に「忠霊殿」を新たに建立。以後毎年、理事長ら大学関係者が校友会新潟県支部とともに慰霊を行っている。

●第二回全国大学史展

「学生たちの戦前・戦中・戦後」

第一次世界大戦後の高等教育機関の拡充期から、第二次大戦後の高度経済成長期までの学生の歴史を振り返る、第二回全国大学史展「学生たちの戦前・戦中・戦後」が七月三日から八月二日まで、明治大学博物館特別展示室（駿河台キャンパス）で開催された。大学史に関する資料の調査収集・整理保存などを目的に活動する全国大学史資料協議会東日本部会と、明治大学史資料センターとの共催。

●世界に広がる協定校

四十四カ国・地域二百五十五大学と協定

明治大学は、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校、聖公会大学と大学間協力協定を、ルンド大学と部局間協力協定を新たに締結した。協定校は四十四の国と地域、二百五十五大学となった。（七月六日現在）

●英語圏大使館合同留学フェア2015

国際連携本部（本部長 勝悦子 国際交流担当副学長）の主催による「英語圏大使館合同留学フェア2015」英語を学べば、セカ

イと話せる」が七月十八日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。同フェアは、英語圏への留学の魅力をより広く知ってもらうため二〇一二年から開催され、今年で四回目。会場には明大生のほか、英語圏への留学に興味を持つ中高生、大学生、社会人ら約六百五十人が詰めかけた。

●法学部

Law in Japan Programを開講

法学部は、日本の法と法制度を英語で学ぶ外国人向け短期プログラム「Law in Japan Program」を七月二十七日～八月七日に開講。外国人学生・社会人を対象に二〇〇九年から実施されており、今回はイタリア、フランス、ハンガリー、ルーマニア、ロシア、アメリカ、メキシコ、ブラジル、マレーシア、中国の十カ国から学生・社会人二十二人と、本学法学部生四人の計二十六人が参加した。プログラムは講義とフィールドトリップで構成。講義では、法律知識のない受講生も考慮し、憲法、民法、刑事法、競争法、知的財産法、情報法、租税法、国際法といった多彩な実定法分野を幅広く取り上げ、さらに司法制度の発展、刑事政策（刑務所制度）、法曹制度、企業法務などを学ぶことで、日本の法について立体的に理解ができるものとなっている。

●政治経済学部

VIBBEプログラム

政治経済学部と桜美林大学が共同で実施している国際インターシップ付協定留学プログラム（VIBBEプログラム）四大学連携プロジェクトの第一回受け入れが七月末で終了するのを受け、ロッテルダム応用科学大学、東フィンランド大学からの留学生と政経学部の学生が七月二十二日、プログラムの成果に関するプレゼンテーションをオランダ大使館（東京都港区）で行った。

留学生ならびに学生は、明大、桜美林グループに分かれて「中小企業の国際化」をテーマに、半期におよぶ調査の成果を披露。明大グループは「益子町の陶器・酒に関する欧州での販売促進」と「欧州から益子町への来訪者誘致」に関する提案を行い、桜美林グループは「墨田区にある老舗Tシャツメーカーの新商品開発と拡販戦略」「外国人観光客に墨田区をより良く知ってもらうための施策」について提案を行った。

●豪コアラファウンデーションと

インターンシップ実施に関する協定締結

政治経済学部は七月二十三日、世界最大のコアラ保護団体である「オーストラリアコアラファウンデーション」（AKF、本部：豪ブリスベン）と、インターンシッププログ

ラム実施に関する協力協定を締結した。同日、駿河台キャンパス・矢代操ホールで執り行われた署名式には、政治経済学部の鈴木利大学部長と国際交流委員長の武田巧教授、AKFのデボラ・タバートCEO（最高経営責任者）が出席。和やかな雰囲気の中、双方が協定書にサインをした。

近年、森林伐採など環境破壊により生息地を奪われているコアラ。一九八六年に設立されたAKFは、豪国内に生息する野生のコアラを長期的かつ効率的に保護するための活動を進める非営利団体である。今回締結されたプログラムは、野生のコアラが直面する危機的状况とその解決策、またコアラという豪国のアイコンが本来持つ経済的価値について、学生自らがリサーチし、その中身を発信することを期待している。政治経済学部の学生は、豪・クイーンズランド工科大学への協定校留学中に、最大十三週間のAKFのインターンシップに参加することができる。

●ベトナム短期学生交流プログラム

情報コミュニケーション学部は七月六日

～二十日、本学協定校のベトナム国家大学ハノイ外国語大学東洋言語文化学部日本語学科から、四人の短期留学生を受け入れ、日本語の講義や施設見学、学生間交流などを行った。このプログラムは、父母会と校友会より

助成を受けて実施しているもの。留学生たちは、情コミ学部の授業を受講したほか、留学生の日常生活をバックアップする「留学生サポーター」の学部生六人とともに、山中セミナリーハウスでの合宿や、国会議事堂の見学などに参加。実践的な経験から日本文化を学ぶとともに、日本語能力の向上を目指した。

七月十七日に行われた修了式では、石川幹人学部長から留学生一人ひとりに修了書が授与され、留学生たちは、来日して気付いた日本とベトナムの違いや、日本に来て驚いたことなどを日本語でスピーチ。約二週間にわたる日本語学習の成果を披露した。

●明大関係者が富岡市を訪問

岩井市長らと対談

林義勝図書館長、風間信隆博物館長、藤江昌嗣社会連携機構長ら本学関係者が七月二日、昨年六月に世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」のある群馬県富岡市を訪問。同市役所で岩井賢太郎市長らと会談し、同製糸場を見学した。会談には、富岡市からは、小林正次副市長、今井幹夫富岡製糸場総合研究センター所長、上原茂文世界遺産部長、稲塚広美世界遺産部富岡製糸場戦略課長、村田文代市民生活部文化振興課長・美術博物館長が同席。明治大学からは、飯田年穂政治経済学部教授、クリスチャン・ポラック

政治経済学部客員教授、渡辺響子法学部教授、浮塚利夫学術・社会連携部長、坂元昭一博物館事務長、岩崎宏政社会連携事務長が同席した。

●理工学部

「夏休み科学教室」に三百三十人が参加

理工学部は八月五日、地域社会との交流などを目的とした毎年恒例の「夏休み科学教室」を生田キャンパスの各校舎で開催。事前に申し込みのあった小中高生約三百三十人が参加し、実験・実習・工作を通じて自然科学の不思議さや、モノづくりの面白さを体験した。

今回は「太陽電池で動くラジオ!」「化学の花園」色鮮やかなケミカルガーデンをつくりましょう」「数理パズルを解くコンピュータープログラムをつくろう」など、学年に応じた十五のプログラムを用意。理工学部八学科の担当教員と学生らが、各教室で小中高生の指導にあたった。

●ビブリオバトルを

三省堂神保町本店で初開催

発表者が壇上で本を紹介するゲーム形式の書評会「ビブリオバトル」が七月二十日、三省堂書店神保町本店(東京都千代田区)で、「夏休みに読みたい一冊」をテーマに開催された。同書店では初開催で、約五十人が参加

した。法学部四年の小松雄也さんが読書普及活動を目的に設立し、自らが代表理事を務める一般社団法人ビブリオバトルの主催。

「本離れ」が指摘される若者をはじめ、幅広い世代の人たちに面白い本と出会おうきっかけをつくってもらおうと、三省堂書店に企画を持ち込み、今回の実現に至った。

●総合数理学部

「わくわくサイエンスラボ in 中野」

総合数理学部は八月二十一日、〆作って〆測って〆操ろう〆をテーマに、科学の不思議や面白さを体験する科学教室「わくわくサイエンスラボ in 中野」を中野キャンパスで開催した。数理学部の魅力を子供たちに体験してもらおうことを目的に企画されたもので、三回目となる今年は小中学生を合わせた六十二人の参加者を、魅力的な四つのプログラム「ロボットを操ろう!」「しりとりアニメを作ろう!」「センサで測ろう!」「化学ボートで遊ぼう!」を用意して出迎えた。

●「ひらめき☆ときめきサイエンス」

〆ようこそ大学の研究室へ〆

大学や研究機関で取り組む科学研究費助成事業(科研費)の成果を小中高生に体験してもらおうプログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス」〆ようこそ大学の研究室へ〆KAK

ENHI」が八月、駿河台・生田キャンパスと黒川農場を会場に開催された。同プログラムは、日本学術振興会の委託を受けた全国の大学や研究機関が毎年実施しているもの。

明治大学では今回、①作って学ぶ考古学の世界へ縄文時代貝製腕輪の製作と使用（文学部・阿部芳郎教授）、②様々な気体をマイクロバブル化させ、植物病原菌に対する殺菌効果を体験しよう！（農学部・玉置雅彦教授）、③日本人が育んだ発酵微生物へ麹菌と乳酸菌（農学部・中島春紫教授）、④地震の揺れから身を守るへ振動を科学してみよう！（理工学部・松岡太一講師）の四プログラムを実施した。

●特別会計研究室

創設六〇周年記念懇親会を開催

明治大学国家試験指導センター経理研究所「特別会計研究室」の創設六〇周年記念および明治大学公認会計士の懇親会が七月十七日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催され、同研究室のOB・OGをはじめ、日高憲三理事長や福宮賢一学長ら大学関係者など、約百三十人が出席した。

●明治大学発、社会への提言

「Meiji.net」がリニューアル

明治大学はこのほど、広く社会に対し、よ

りわかりやすく大学の教育・研究情報を発信していく情報WEBサイト「Meiji.net（メイジネット）」をリニューアルオープンした。明大の教員が、あらゆる社会問題に対して提言を行う「My Opinion（エムズオピニオン）」のコーナー（毎月三本更新）では、これまでに約七十本の記事を掲載。少子化問題や地方創生、アベノミクスや少年法といったさまざまな問題をわかりやすく解説している。また、「動画でわかる！◆◆」というコーナー（毎月一本更新）では、大学で行われている多種多様な研究の現場を動画で紹介。日常生活で身近な問題と、大学の研究が密接に関わっていることを伝えている。

「Meiji.net」は、PC（パソコン）およびスマートフォンで閲覧が可能。

●教育開発・支援センター

新任教員向け研修会を開催

今年度新たに採用された教員を対象とした「新任教員研修会」が七月十八日、駿河台キャンパス・リバティタワーで開催された。この研修会は、当該年度に任用された専任教員と特任教員を対象に教育開発・支援センターが毎年開催しているもので、明治大学の沿革や教育理念、教育の心構えなどについての理解を促し、教員自身の自己啓発意識を高

めることが目的。

●校友・兒玉圭司氏が

ラオスに小学校など寄贈へ

明治大学前監事で、(株)スヴェンソン代表取締役社長の兒玉圭司氏（一九五七年・経営卒、連合駿台会会員）は、外務省が推進する「日ラオス外交関係樹立六〇周年記念事業」の一環として、ラオスに小学校（Nonsavang KODAMA Prime School）および卓球スクール（KODAMA PING-PONG SCHOOL）を建設、寄贈する。兒玉氏は体育会卓球部出身で、日本代表チームの監督としても長年にわたり尽力。卓球というスポーツを通じて三カ国以上と交流を深めてきた。また、兒玉氏夫人は、以前から発展途上の恵まれない子供たちに対して何かできないか、何か役立てることはないかと模索してきたという。

そのような中、兒玉氏は日本貿易振興機構（JETRO）の関係者と話す機会があり、ラオスが教育面でミャンマーやカンボジアより悪い状況にあることや、仏教国であると同時に親日国であることなどを知り、「長年、夫婦二人が抱いてきた思いと合致する」と、ラオスでの学校建設に思い至った。

●二〇一七年度より全学一斉に

時間割・学年暦を変更

明治大学は、「教育力」の飛躍に向けた総合的教育改革」の第一歩として、二〇一七年度より一コマ100分を基本とする新たな授業時間割や、二学期4ターム制を全学一斉に導入する。この改定により、学修の目的に合わせた柔軟な授業設計や、学生の海外留学が容易となり、本学のさらなる教育力向上が期待される。

●農学部 野菜園芸学研究室

「新世代アグリノベーター育成講座」

農学部野菜園芸学研究室（元木悟准教授）は八月五日、パイオニアエコサイエンスとの共催による産学連携セミナー「新世代アグリノベーター育成講座」を生田キャンパスで開催。野菜の生産者や流通・販売業者、行政やJAの関係者、農学部を中心とした学生など約二百人が参加し、栽培技術やマーケティングについて現場の視点から考察した。元木准教授からの主催者あいさつに続き、午前の部（販売とマーケティング）のメインセミナーでは『カラフルトマトの市場性とは？』をテーマに、野菜ジャーナリストの篠原久仁子氏やカラフルトマトの生産者ら四人が討論。赤、黄、緑などの彩り豊かなカラフルトマトが売り場を華やかにする「起爆剤」となり得る一方で、食味向上と収穫量の両立に課題もあることなどが現状として示された。

●経営学部

二〇一七年度入試より英語資格・検定試験を一般選抜入試に活用

「グローバル経営人材」の育成を目指す経営学部では、二〇一七年度入学試験（二〇一七年四月入学）より、一般選抜入試の一部に英語資格・検定試験を活用する。これまでの一般選抜入試では「読む」技能の評価が中心だったが、英語資格・検定試験を活用することにより、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語4技能を評価できるようにする。一般選抜入試での民間の英語テストの利用は、明大における初の試み。

●大学院経営学研究科

経営学部卒業生を対象、年齢制限なしの特別入試

大学院経営学研究科では、経営学部卒業生全員を対象（年齢制限なし）とした特別入試制度を導入。Ⅰ期入試（九月中旬）とⅡ期入試（来年二月中旬）の両方で実施する。経営学部を卒業していることを条件に、筆記試験が免除される。ただし、研究志向のリサーチコースの出願条件はGPAが二・〇以上か、それと同等であることが必要。社会人向けのマネジメントコースはGPAを問われない。Ⅱ期入試の募集要項は、十一月十一日に公開を予定している。

経営学研究科では、海外の大学院の修士号を同時に取得できる「ダブルディグリープログラム」を持つているほか、ヨーロッパなどのビジネススクールとの交換留学制度により、留年することなく留学もできる。

●第二十八回ユニバーシアード競技大会

明大関係者が十七個のメダルを獲得

二年に一度開催される学生のオリンピック、第二十八回ユニバーシアード競技大会韓国・光州）で、明治大学関係者が十七個のメダル（金6個、銀7個、銅4個）を獲得した。

●体操部

矢代操の出身地、福井県鯖江市で合宿

全日本学生体操競技選手権大会に出場した体育会体操部のメンバー十九人が、大会前にした八月十三日～十六日、明治大学創立者の一人である矢代操の出身地・福井県鯖江市の立待体育館で合宿を行った。明大は二〇一一年十一月、鯖江市との間に、連携協力に関する協定を締結。協定に基づく学生との交流の一環で、鯖江市より体操部の練習場として同体育館の提供を受けている。

●日本山岳会学生部ネパール東部登山隊

宮津さん（農3）が登攀隊長として参加

農学部三年・宮津洸太郎さん（体育会山岳

部OB)が参加する、公益社団法人日本山岳会一〇周年記念事業「日本山岳会学生部ネパール東部登山隊二〇一五」の壮行会が八月二十日、駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで開催され、関係者ら約五十人が列席した。宮津さんをはじめ、各大学から集まった学生六人で構成される同登山隊は、ネパール東部カンチエンジュンガ山群の未踏峰二座(ザニエII峰、ローナク峰)の登頂に挑む。

現地での作戦や戦略を練る役割を担う登攀隊長として参加する宮津さんは「学生のみ隊となるので、とにかく安全第一を心がけている。その中でも、これまで隊員と積み重ねてきた訓練を信じて、前へ」と進む精神を持って挑みたい」と、力強く語った。

●六大学野球 秋季リーグ開幕 秋三連覇に挑む

東京六大学野球の二〇一五秋季リーグ戦が九月十二日に開幕した。昨年、一昨年の秋季リーグを制した体育会硬式野球部が、秋三連覇に挑む。春季リーグは四位と悔しさが残る結果に終わった明大は、第二週目(立大戦)から登場。春季に完全優勝を果たした早大とは、第三週目に対戦する。

●ラグビー対抗戦

「責任とりパイプ」チーム一丸で優勝へ

関東大学ラグビー対抗戦Aが九月六日に開幕した。体育会ラグビー部の初戦は九月九日の立大戦(秋葉台)に決まった。昨年は三位(五勝二敗)に終わったが、「責任とりパイプ(復活)」というスローガンを掲げ、チーム一丸となって優勝を目指す。

◆七月例会出席者

青木孝、青木幹則、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、阿部了、有賀隆治、石川かおり、石川均、石橋良一、石原裕司、泉山和久、市川光夫、伊原敏雄、上西紘治、上野拓史、宇川一夫、潮田伊佐夫、打出満、梅津章、大前実之、大村託現、大山卓良、奥村勝広、荻部彰夫、河村博、木村健一、清野明男、小山修、根田哲雄、斉藤弘之、坂田英夫、佐藤和正、佐藤健、眞田瞳、椎名茂樹、甚野捷、杉浦伸二、鈴木絃一、鈴木隆志、同ご友人、鈴木俊光、関孝夫、関根均、瀬下和夫、瀬戸正道、竹下衛司、多田弘、谷慈義、田村駿、天童美德、同ご友人、中川敏洋、西尾勝治、西山武夫、橋口隆二、長谷川進一、同ご友人、馬場範夫、原田榮、日高憲三、平川清、福田和彦、藤巻伴英、榎野泰、同ご友人、松崎優子、宮下隆、向井眞一、村岡健、室井恵明、山上雅隆、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、義江邦夫、渡邊洋三

【編集後記】

今年の夏は猛烈な暑さに悩まされましたが、八月下旬から曇りや雨の日が増えて、朝晩は半袖ではやや肌寒くなりました。何とも梅雨に逆戻りしてしまつたようです。過ごしやすいものの、夏らしくないハッキリしない天気気持ちもなかなか乗らない日々ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

さて先日、明治大学が「日本留学アワーズ(留学生に勧めたい進学先)」として、私立大学文科系部門(東日本)で四年連続第一位を受賞いたしました。日本留学アワーズとは、多くの外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に、日本語学校教育研究大実行委員会が二〇一二年に創設したものです。

今年は全国の日本語学校百六十六校から四七一票が集まり、全十部門のうち私立大学文科系部門(東日本)において、早稲田大学や聖学院大学などの上位校をおさえて四年連続の堂々の一位を獲得いたしました。日頃よりご尽力されておられます本学の国際連携に関わる皆様には、謹んでお祝いを申し上げます。

明治大学には中国や韓国の留学生だけでなく、アメリカやヨーロッパからも多数留学されておられます。連合駿台会に入会いたしました。明治大学の先輩・後輩の強く温かい結びつきを感じることができました。これからは校友の一人として留学生に明治大学の良さ、温かい結びつきを知っていただける活動に貢献できればと思っております。

今年も異常気象が続いております。気圧や気温の乱高下などで、どうかお風邪など召しませぬようご自愛願えれば幸いです。(相臺志造)